

モガミ電線

モガミ電線は1957年の創業以来「音響機器」に関わる仕事をしてきたが、1977年のから「電線で音が変わる」ことに関する研究を開始。現在では放送局、レコーディングスタジオ、公共ホール等の業務用オーディオ・ビデオ及びコンピュータのインターフェース・ケーブル等を開発し、販売を行っているが、定評のある柔軟かつ機械的強度に優れたケーブルや、基礎・基本的な工学技術に於いて他社を凌駕する技術情報の蓄積を活かした付加価値の高い製品作りを行なっている。

このような高度な技術を活かし、イーサネットケーブル、BNCコネクタ付き同軸ケーブル、110QAES/EBU デジタルオーディオ・マルチケーブル、吊りマイクケーブル、0.226mm² ステレオマイクケーブル、高解像度チューブ・マイクロフォン・ケーブルなどを主力製品としているが、昨今では「オーダーメイドケーブル」にも力を入れている。

ブースでは、同社の定番製品であるmogami『2524』や『3368』を出品したほか、本展では『2524』パッチケーブルを初出展した。

mogami『2524』は、同社が製造しているギターケーブルの中でも、フラット&シャープでクセのない音質が特徴で、最もバランスが取れている。



NEUTRIK プラグ付きのmogami『2534』を紹介。

絶縁体とシールドの間に導電性PVC層を施すことで、楽器演奏時に、接続しているケーブルが動かされ、曲がったり、床面などで跳ねるなどが起こった際に生じる微小なマイクロフォニクスノイズを軽減している。

また、プラグにはノイトリック社のREANブランドを採用したことで、堅牢な設計、信頼性の高い機能性を実現している。

従来より「2534」は世界中の音楽スタジオやコンサートホール等で、その品質を認められ使用されているマイクケーブルとして業界定番のケーブルであるが、全体的にロー・ミッドのバランスが良く、MOGAMIらしいクリアなサウンドが特徴。一般のダイナミックマイクやコンデンサーマイク用に加え、真空管マイクにも対応実績がある。

また、米国のSHURE社やオーストラリアのRODE社との、共同開発 実績もある。モガミ電線のネグレックス・シリーズのマイク・ケーブルは、情報量の保存を最も重視しなければならない音質重視のデジタル録音などを行う、レコーディングスタジオ用に開発された製品です。柔軟性、マイクロホニクス（タッチノイズ）やシールド効果という基本的な事柄は、国際基準を満たす設計になっている。

mogami『2534』は4芯構造で、バランス・カッド結線されており、サイリスタやモーターが引き起こす近接電磁ノイズのキャンセリングに有効であると共に、高音質も保つ。

もともとプロ用ケーブルで世界的な知名度と信頼を得ている同社製品にはギター用のシールド・ケーブルにも多くの愛好者がいるが、ケーブルのみの販売でプラグが付いていなかったため、ハンダ付けの苦手なユーザーには手を出しにくかったが、昨今では、同社を代表するハイインピーダンスギターケーブルである「2524」にプラグが付いている製品も販売してきた実績があり、この度 NEUTRIK プラグ付きの製品が誕生したわけである。



そのほか本展では、3極⇄5極変換アダプター、120Ωターミネーター、RoHS対応の「DMXシリーズ」アクセサリや、アメリカBTX社のネジ止め方式のコネクタ「ターミナルブロックコネクタ」などを紹介した。

一方、例年と同様に本年もプロのギタリストの鈴木健治氏による演奏にて、ケーブルの違いによるギターの色合いの違いを来場者に実感してもらうテストが行われ、注目を浴びていた。さらに、来場者参加によって異なったエレキギターのケーブルによる音色の違いを表現する場となっていた。

※ 製品情報 ※

<https://www.mogami-wire.co.jp/>

